

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	じじっかファミリー
事業名(副) ※任意	ラッキーLOOPプログラム構築

入力数 主 9 字 副 14 字

実行団体名	一般社団法人umau.
資金分配団体名	一般社団法人SINKa

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
☑ 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
☑ 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
☑ 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_2.飢餓をゼロに
_4.質の高い教育をみんなに
_5.ジェンダー平等を実現しよう
_10.人や国の不平等をなくそう

実施時期	2021年7月 ~ 2022年2月	事業 対象地域	<input type="checkbox"/> 全国 <input checked="" type="checkbox"/> 特定地域（筑後地区）	事業対象者： （事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む）	ひとり親世帯 生活保護受給世帯 身体、精神、知的障がいのある人がいる家族 コロナ禍で生活が困窮になった世帯	事業 対象者人 数	150人
------	-------------------	------------	---	---	---	-----------------	------

I. 団体の社会的役割

(1)申請団体の目的
理念 育て合う、学び合う、支え合う、そんな合うを生み（um）出し合う（au） コンセプト ラッキーLOOPを巻き起こせ！ ①100人の貧困家庭の脱出（根本的原因の追求と解消） ②ひとり親、ふたり親ではなく、7人親へ（地域子育てによる教育） umau.ではひとり親家庭を中心とする親子の発想で 様々な状況下にある家族の居場所「じじっか」を拠点に愛のある関わりと希望をもてる環境づくりを目的としています。
(2)申請団体の概要・事業内容等
わたし達はひとり親世帯、生活保護受給家庭、障がいのある人がいる家庭等親子の自立を目指し次の事業を推進します。①拠点づくり（おやこ食堂・体操ジム・フードバンク提供場・イベント会場等）②仕事づくり（就労支援・リモートワーク・内職・副業）③仲間づくり（暮らしをシェア・イベント企画・レンタルスペース等）④訪問（学習支援・食事配達・相談等）⑤学ぶ場づくり（子どもの体験企画・休日企画・親のスキルアップ教室等）

入力数 (1) 199 字 (2) 200 字

II. 事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
厚生労働省が公表した2019年国民生活基礎調査では、子どもの7人に1人が貧困状態と言われる中、久留米市は4人に1人とされている現状です。私達は2014年から「ママをひとりにはない母子家庭団体SWAK」という当事者の市民活動を行ってきました。6年間、様々な母子家庭の親子と接する中で経済的な課題だけではなく、精神的な不安定さ、時間の使い方、選択肢の少なさ、コミュニケーション能力の不足、信頼し合える仲間がいないことなど母子家庭の「貧困」の原因にはたくさんの要素が併存していることを実感してきました。それらは現社会に存在する制度やサービスだけでは補うことができない支援の隙間ではないかと思いはじめました。そこで2019年からフードバンクの配達を開始。食材を玄関先まで配達し対話を重ねてきました。新型コロナウイルスの感染が拡大していく中でも足を止めず訪問することで孤立の解消と、状況把握の為のアンケート調査を実施し、コロナ禍による収入の減少や今後減少の可能性があると答えた4割の方々に更に配達量を増やすなど、私達に出来ることを行ってきました。現在、ひとり親家庭、生活保護受給家庭、障がいのある人がいる家庭など124世帯のネットワークへと広がりました。私達の拠点である「じじっか」という名前は「実家のような居場所」という意味です。誰もがじじっかと関わることで家族のような信頼関係を築いていけるよう活動を続けてきました。その中で「あと2週間、財布に21円しかない」「ミルクが買えない」「仕事が見つからない」「子どもにイライラしてしまう」など、今までの困窮状態がコロナにより更に貧困度が上がっていていること目の当たりにしています。活動の中から当事者である私たちが見つけたことは「自分達で自分達の悪循環を自覚し、貧困脱出のためにチャレンジする仕組みと仲間が必要」だと確信し、当事業に挑戦させていただきます。

入力数 800 字

III.事業内容

(1)事業の概要
<p>ひとり親家庭を中心に生活保護受給家庭、障がいのある人がいる家庭など支援が必要とされる親子を対象に、暮らしの好循環を生み出すプログラムを構築します。</p> <p>当事者同士の活動の中から小さな声を拾い集めたことで導いてきた「支援の隙間」を自分達で埋めていくことと、「当事者としての自覚」をし合える仲間がいることで支援される側としての意識だけでなく、お互いに支え合い相互扶助となる仕組みをつくり、ネットワーク拡大を目指します。</p> <p>更に会員が増えていくことにより、節約につながる相互扶助サービスを増やし、子ども達の成長をたくさんの大人と見守り、貧困の生活状態を改善し、自立した活動へと繋げていきます。</p>

入力数 291 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
<p>じじっかファミリー ラッキーLOOPプログラムの仕組みが整いスタートラインに立った状態を目指します。</p> <p>1年後は150名の会員となり地域とのネットワークや活動幅も広がることで他の事業展開にもつなげていること。</p> <p>支援されていた人が運営する側となり、プログラムを推進していくような自発性を持てる人材が増えていること。</p> <p>人材と経済状況が最低限でも整い、自主事業として自走していける状態をつくります。</p>

入力数 194 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<p>じじっかファミリー会員数の目標数到達 (じじっか族100名 大黒柱50名) 仕組みの構築とメニュー開発などが定着している。</p> <p>じじっか族（会員）の支え合いの意識向上と生活の満足度が向上している。</p>	<p>じじっかファミリー会員数 (じじっか族 大黒柱)</p> <p>アンケート結果の変化 利用者の満足度の変化</p>	<p>じじっかファミリー会員数カウント (じじっか族 大黒柱)</p> <p>利用者に対する意識調査、満足度調査アンケートの実施、結果の分析</p>	<p>じじっかファミリー 大黒柱 50人 じじっか族 100人</p> <p>アンケートによる意識、生活の満足度が向上している。</p>	2022年2月末

(4)活動	時期
○活動	目標スケジュール
「じじっかファミリー」ーラッキーLOOPプログラムー構築（相互扶助で貧困脱出と自立を目指す民間ミニ制度づくり）	
<u>〈目的〉</u>	2021年7月
1) <u>当事者だからこそ分かる貧困の原因追求</u>	パンフレット作成・会員募集開始
社会的に「貧困世帯」と言われる家族がつながり関わり合うことで、様々な貧困の要因を自分たちで見つけ出し解決・解消していくこと。	+）じじっかごはん
2) <u>支え合えるプラットフォーム構築</u>	じじっかの休日
当事者だけではない関わりをつなげ、広めることでの地域のプラットフォームを構築すること。	
3) <u>各家庭の安心と安全と安定</u>	2021年8月
血縁はなくても「家族」になる仕組みをつくることで、心と生活の安定と安心、子ども達への関わりと育成、家庭内の問題抽出を行う。	+）寄付の窓口開設
4) <u>他機関との連携による体制づくり</u>	×）パソコン教室・裁縫教室など
地域の困窮者に対する制度やサービス、支援体制などに上手くつながり切れていない状態を解消させるために各機関との連携の体制を整える。	÷）2企業からの依頼
5) <u>他県でも実施できるモデルケース</u>	
当事業によりプログラムとして構築していくことで、どこでも展開できるよう仕組み化をしていく。	2021年9月
<u>〈じじっかファミリーMENU〉</u>	+）欲望形成教室として開始
生活にかかる時間や物、労力や価値をみんなでシェアすることができるメニューの開発	×）整理整頓教室（ひと家族の家をみんな整理整頓の実施）
A) <u>じじっか+（プラス）</u>	÷）いつでもどこでも出来るリモートワークの依頼と実施
生活の要素をシェアすることでの節約と豊かさを目指す（例：じじっかごはん・じじっかの休日など）	
B) <u>じじっか-（マイナス）</u>	
寄付服・食材等を必要な人に届けていける窓口をつくる（例：フードバンクなど）	
C) <u>じじっか×（カケル）</u>	2021年10月
スキルや経験を活かし誰かの役に立つサービスをつくる（例：パソコン教室・裁縫教室など）	+）じじっかシアター
D) <u>じじっか÷（ワル）</u>	×）会員の中からいくつかの希望が出てくる
企業との連携により作業的な仕事の依頼をみんなでシェアする（例：エクセル入力・リモートワークなど）	÷）リモートワークの実施
<u>〈広報・PR方法〉</u>	
●現在のじじっかに関わっている124世帯のひとり親家庭・生活保護受給家庭・障がいのある人がいる家庭に向けてのお誘い	2021年11月
●SNS・ホームページ・公式LINE等での配信や公開説明会の実施	増えてきた会員との交流の見直しや、
●今まで協力してくれた方々、知り合いの方などへのお声掛け	仕組みの改善・整理等
●パンフレットやチラシなど誰でもが説明しやすいツールの作成	
●じじっかイベントや定期企画での集客と、告知機会の創出	2022年2月
	アンケートで意識、生活の満足度が向上
実際に進めていくにあたって、実践者の意見を一番に重視し柔軟性を持ち、形にしていくことで	
たくさんの方々のニーズに添い、困りごとの解消につながる案が出てくることを念頭においています。	
対象者の生活向上のためのメニュー開発、働き方の提案、子育ての共有などを重きにおき、対応していきます。	

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	総合管理者 1名 副管理者 1名 事務局 1名 企画事業責任者 1名 拠点事業責任者 1名 事業計画推進管理者 1名 寄付窓口担当 1名 営業担当 1名 およこ食堂担当 2名 配達スタッフ 2名
(2)他団体との連携体制	(支援物資・食材提供) 7団体 (企業連携) 5社 (ネットワーク連携) 8団体
(3)想定されるリスクと管理体制	①活動拠点「じじっか」でのコロナウイルス感染対策について 感染状況に応じて人数制限を行い、尚且つ訪問者の訪問時の検温、訪問者リスト記入。施設内の換気及び清掃消毒。手指の手洗い及びアルコール消毒徹底などを行います。 ②食事配達などの交通事故防止 ③およこ食堂の衛生管理について これら想定されるリスクについては、月一回行う会議においてこれらのリスクアセスメントについて話し合いを行い、適時管理を強化します。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input checked="" type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input checked="" type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				
・株式会社キャリアードにおける母子家庭支援・キャリアアップ講座等を10年以上継続している ・NPO法人わたしと僕の夢における困窮世帯の無料塾の実施 ・支援対象児童等見守り強化事業 ・久留米市における中間支援組織プラットフォーム「IC UNIT」に所属				